

タイムラインを確認して、大雨への備えを！

近年、集中的な豪雨による水害の発生が増加しています。特にこれからの時期は本格的な雨季を迎え、台風や短時間豪雨の発生が見込まれます。去年は町内でも台風の影響により、道路の冠水や床下浸水等の被害があったほか、土砂災害警戒情報の発令を受け、山間部を中心に避難情報の発令をしています。大雨のおそれがある場合は、テレビ等による情報収集を行うとともに、町が発令する避難情報に注意しながら、身の安全を確保してください。また、タイムラインを確認し、災害時の行動を事前に決めておきましょう。

避難情報について

災害が発生した場合、または発生するおそれがある場合、住民の安全確保と被害の拡散防止の観点から町長は避難情報を発令します。発令される避難情報は災害時の状況により、以下の3つに分類されます。

避難準備・高齢者等避難開始

- 避難に時間を要する方（高齢の方、障害のある方、乳幼児などとその支援者）は避難を開始してください。
- その他の方はいつでも避難をできるように準備してください。

避難勧告

- 避難所へ速やかに避難してください。
- 避難所への避難が危険な場合は「近くの安全な場所」か「自宅内のより安全な場所」へ避難してください。

避難指示（緊急）

- すぐに（緊急に）避難してください。
- 既に災害が発生していてもおかしくない極めて危険な状況です。避難所への避難が危険な場合は「近くの安全な場所」か「自宅内のより安全な場所」へ避難してください。

タイムラインとは・・・

災害の発生を前提に、災害時の状況を予め想定し、共有した上で、「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画です。

住民の皆様は、策定されたタイムラインを参考に、情報収集や避難の準備などを行ってください。 → 次ページへ

町の体制と対応

- 情報収集
- 災害時対応資機材及び物資の確認
- 公共施設の点検確認
- 住民への注意喚起
- 町内のパトロール
- 小中学校の休校判断、連絡
- 関係機関（県、消防関係、警察等）への連絡
- 避難所への物資の搬入、開設準備

待機体制

水防活動開始

- ホットライン☎助言の要請（熊谷地方気象台）

避難準備・高齢者等避難開始
（被害の拡大が見込まれる場合）

- ホットライン☎助言の要請（熊谷地方気象台）

警戒体制

避難勧告

- ホットライン☎助言の要請（熊谷地方気象台）

緊急体制

- 情報収集
- 避難誘導
- ホットライン☎助言の要請（熊谷地方気象台）
- ホットライン受電☎

非常体制

避難指示（緊急）

- 情報収集
- 消防関係、警察と連携し、逃げ遅れ避難者の救助
- 自衛隊の派遣要請

- ホットライン☎助言の要請（熊谷地方気象台）
- ホットライン受電☎

被災状況の把握に努め、避難者への支援を行います。

町は被害を予測し、早めの避難情報発令を行います。避難情報、避難所開設情報は防災行政無線、エリアメール、メール配信サービス（要事前登録）、広報車、該当地区区長への連絡等により周知いたします。避難情報が発令された際は対象地区と避難所を確認してから避難してください。

住民等

- テレビ等による情報収集



- ハザードマップ等による避難所、避難ルートの確認
- 非常用持出品の準備

防災行政無線、緊急メール、広報車、区連絡網等により避難情報を受信

高齢者等（要配慮者）避難開始

- 要配慮者以外の住民は避難の準備

避難開始

避難所への避難が危険と判断される場合は「近くの安全な場所」か「自宅内のより安全な場所」※に避難し、安全確保を行ってください。



避難完了

避難された方同士、協力しあいながら避難所の運営にご協力ください。

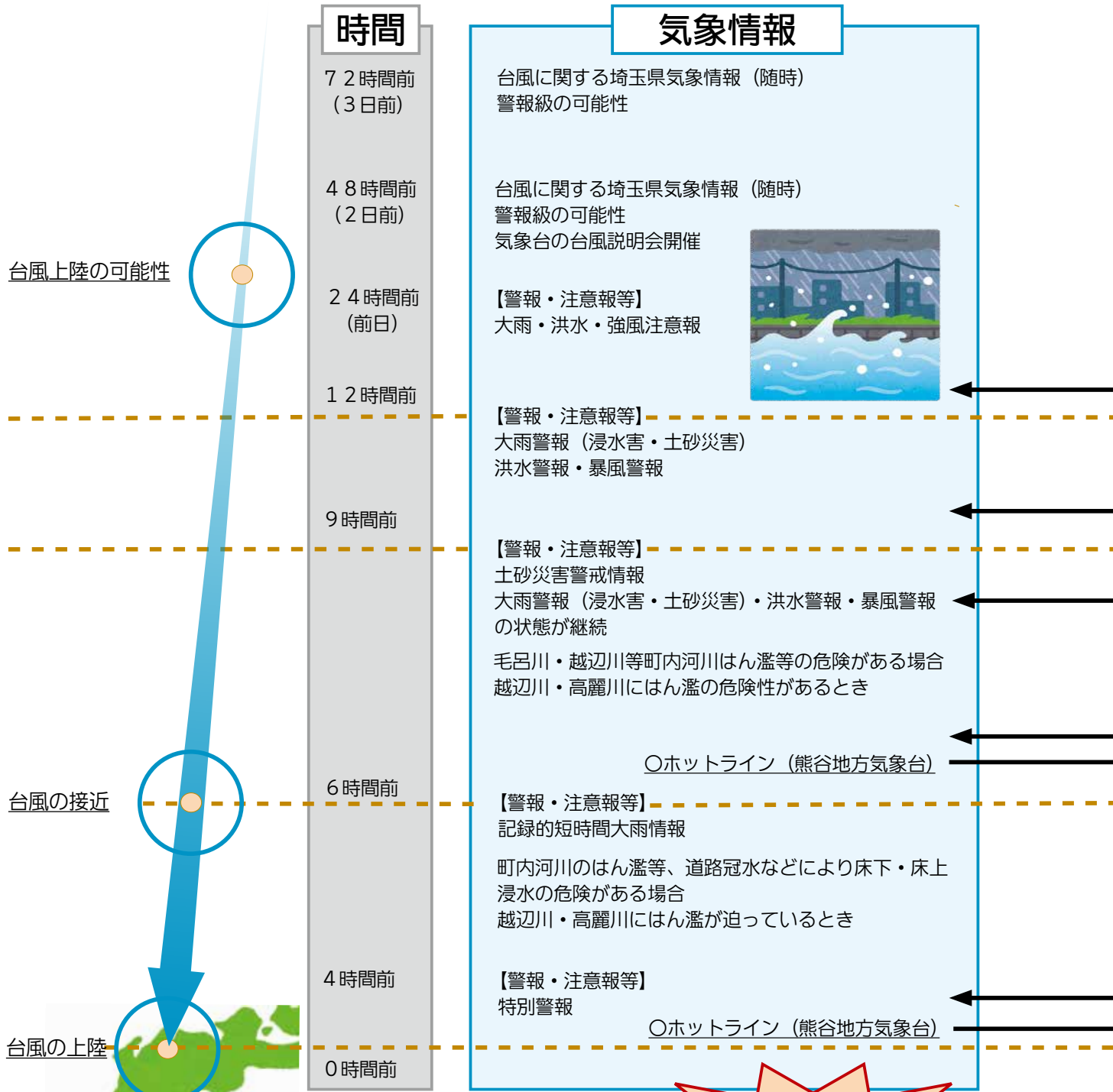


※自宅内のより安全な場所

浸水による建物倒壊の危険が無い場合、自宅や隣接建物の2階等へ一時避難【垂直避難】し、救助を待ちください。また、土砂災害の場合は2階以上の崖から離れた部屋が、より安全です。

災害時は町からの最新の情報にご注意ください。

毛呂山町 台風接近時等におけるタイムライン (簡易版)



**台風最接近
又は河川はん濫**

防災行政無線 メール配信サービス


毛呂山町
メール
MOROYAMA Town Mail



QRコードを読み込んで空メールを送信してください。読み取りができない場合は 下記アドレスに空メールを送信してください。
t-moroyama@sg-m.jp
返信されたメールの案内に沿ってご登録ください。

防災行政無線 電話応答サービス

防災無線の放送内容を確認できます。
☎0800-800-1165



※ タイムラインは災害を予測して作成する行動計画です。災害の状況によって対応が異なります。いざという時に備え、タイムラインは広報から取り外し、目のつく場所に保管をしましょう。